

基礎を学ぶ

適地品種を学習する。
このように自ら作物、庭木などに
れて施工し、新しい事実を学びとるこ
とにより体得させるようにした。

九 受講生の反省
内容について

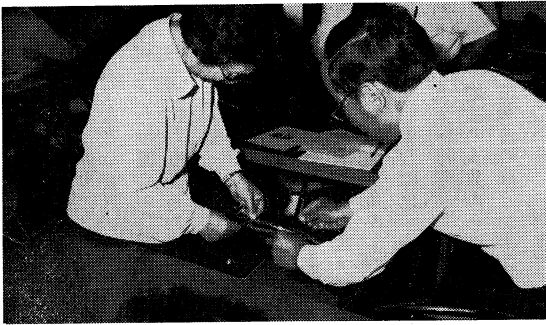
(一) 非常に有意義な講座であり、高校
の積極的な協力により楽しく終え
ることができた。

・ 講義、実技の内容が分かりやすく
ハサミなどの道具類を容易に使用
できるようになった。

・ 本やテレビで勉強するより実技を
通しての学習が大変よかった。

(二) 時間について

・ 時間数が足りなかった。
・ 勤務の関係上、日曜日に実施して



シュロナワによるしぼり方

ほしかった。

(三) 今後の希望内容

- ・ コース別講座にしてほしい(植木
- ・ 庭木コース・造園コースなど)
- ・ サークルを組織して先進地視察、
見学会を実施してほしい。

(四) その他

- ・ 学習の途中で親睦会を催してほし
かった。
- ・ 人と人とのふれあいができた。
- ・ 来年は春、秋と二回実施できるよ
うに企画してほしい。
- ・ 広報の方法に工夫をしてほしい。
- ・ 後から知った人は、受講できない
と断られた。
- ・ 教育委員会では来年も警農高で実
施できるように計画してほしい。

当地域は都市化、工業化が進み、地
域住民の緑に対する欲求度が非常に高
い。参加受講者数を見ても分かるよう
に毎回定員を上回り、受講者を決定す
るのに苦労をした。昭和五十五、五十
六、五十七年と三回にわたり実施して
感じた点を述べる。

一 年齢が二十代から六十代までと層
が広い。なかでも特に三、四十代が
多かった。男女の比率は半々であり
職業は多種多様であった。

二 園芸に対する知識は各種講習会、
参考書、テレビなどによって高い知
識を持っていた。

三 参加者全員が意欲的で吸収しよう
という精神がおう盛であった。

このように受講生の学習意欲は高く
勉強に励んでいるのであるが、知識の
みで実技(実習)の方が、伴わない。
実技(実習)を中心とした学習の場が
少ないからだ。そこで開設校である農
業高校の特色を生かし、実技(実習)
に重きをおいた講座を実施した。その
結果、家庭菜園作り、盆栽手入れなど
の実技学習は、受講生の家の庭や鉢物
管理などに直ぐに応用ができ、受講生
の一応の欲求は満たされたと思う。し
かし、学校の事情により期間を長く取
れず、実習の成果を自分の目で確認で
きないのが受講生にとっては心残りだ
であったと思う。

四 その他

園芸というテーマは範囲が広すぎ、
今回は講座内容の焦点がぼけたような



植木の手入れ

気もする。しかし、学校施設の開放に
より、講座に実技を多く取り入れたた
め、今までの講義中心の各種園芸教室
とはまた一味も二味も違った内容の講
座であったと思う。

おわりに

当講座の開設により学校と市民の間
にコミュニケーションが生じ、時々、
市民からの園芸に関する相談ごとが、
寄せられる。これは講座を受講された
皆さんが、終始一貫して真剣に取り組
んだ結果である。と同時にいわき市教
育委員会の特段のご配慮、本校職員
の理解と協力のたまものと感謝する。

(福島県立磐城農業高等学校)
教諭 武田征也